

B 聖書は何を教えているか

□聖書の始まりと終わり

1. 聖書の始まり（創世記）

- (1) 1 : 1 はじめに神が天と地を創造された
- (2) 1 : 2 地は茫漠として何もなく（何らかの原因で）
- (3) 1 : 3～2 章 天地の再生と人の創造・エデンの園
- (4) 3 章～4 章 人の墮落と「女の子孫」の預言
- (5) 5 章～9 章 水のさばき（大洪水）
- (6) 10 章～11 : 9 バビロン（バベルの塔）

2. 聖書の終わり（黙示録）

- (1) 14 : 8 バビロンが 2 回倒れるという宣言
- (2) 15 章～16 章 火のさばき（鉢のさばき）16 : 19 「大バビロン」
- ① 17 章 世界統一宗教の都としてのバビロンが倒れる
- ② 18 章 反キリストの世界政府の都としてのバビロンが倒れる
- (3) 19 章～20 : 3 反キリストを火の池に、サタンをアビスに
- (4) 20 : 4～6 【天地の再生と】人の再創造・千年王国
- (5) 20 : 7～15 最後の審判と火の池 サタンを火の池に
- (6) 21 章～22 : 5 新しい天地の創造

II ペテ 3 : 3～7

□新しい天地は、はじめの天地の単なるやり直しではない。違いがある

人の再創造＝第一の復活
による栄化の完成

1. 21 : 2 聖なる都、新しいエルサレムが、天から降^{くだって}て来る
2. 21 : 3～4 神は人々とともに住み、人々は神の民となる。もはや死は、ない。
3. 22 : 1～2 水晶のように輝く、いのちの水の川が、神と子羊の御座から出て、都の大通りの中央を流れていた。

新しい天地では、神が人々とともに住まれる。これが全く違うことである。

新しい地の上に新しいエルサレムが天から降って立ち、地の上に神の御座がある。

神の御座には、神と子羊がおられる。子羊、第二格の神、すなわちキリストがおられる。

神が人と住まうことができるようになるために働かれるのが、キリストである。

ゆえにキリストの名の一つは、インマヌエル「神が私たちとともにおられる」（イザ 7 : 14、マタ 1 : 23）である。

キリストの働きは、死を減ぼすこと（I コリ 15 : 26）。そのために、死をもたらしている原因である罪（ロマ 5 : 12、イザ 59 : 1～2）を、十字架において処理した。そして、キリストは、死者の中からの復活により、力ある神の子として公に示された（ロマ 1 : 4）。

□聖書の始まりと終わりの間は、神の民イスラエルとキリストについて記す

1. 一人の人アブラム（のちに改名して、アブラハム）を選んで、神の民イスラエルを育てる（創 11：10～マラキ）。神とイスラエルとの関係の基盤となるのは、**神がアブラハムに与えた3つの約束（アブラハム契約）**
 - (1) 土地の約束：アブラハムを復活信仰へ導いた
 - ① 「わたしが示す地へ行きなさい」（創 12：1）
 - ② 「わたしは、あなたが見渡しているこの地をすべて、あなたに、そしてあなたの子孫に永久に与える」（創 13：15）
 - ③ 「わたしは、この地をあなたの所有としてあなたに与えるために、カルデア人のウルの地からあなたを導き出した主である。・・・あなた自身は、平安のうちに先祖のもとに行く。あなたは幸せな晩年を過ごして葬られる。」（創 15：7～15）
 - ④ 「わたしは、あなたの寄留の地、カナンを、あなたとあなたの子孫に永遠の所有として与える。わたしは彼らの神となる」（創 17：8）
→ 自分は死んでも復活して約束の地を所有するようになる **復活信仰**
 - (2) 子孫の約束：神の約束を信頼し、復活信仰を裏付ける神の力を体験した
 - ① 「わたしは、あなたの子孫を地のちりのように増やす」（創 13：16）
 - ② 「さあ、天を見上げなさい。星を数えられるなら数えなさい。あなたの子孫は、このようになる。」（創 15：5）、**アブラムは主を信じた。それで、それが彼の義と認められた**（創 15：6）
 - ③ アブラハムは、すでにその年を過ぎた身であり、サラ自身も不妊の女であったのに、信仰によって、子をもうける力を得ました。彼が、**約束してくださった方を真実な方と考えたから**です（ヘブル 11：11）
 - (3) 祝福の約束：
 - ① 「わたしは、あなたを祝福する者を祝福し、あなたを呪う者をのろう。
 - ② 地のすべての部族は、あなたによって祝福される」（創 12：3）
 - ③ 「地のすべての国民は、彼によって祝福される」（創 18：18）
 - ④ 「あなたの子孫によって、地のすべての国々は祝福を受けるようになる。」（創 22：18、ガラ 3：16）
→ ①は、寄留の地で実際にアブラハム、そしてイサク、ヤコブの身の上に起きた。さらに、歴史上、イスラエル民族に対する諸国民の扱いとその結果にも現れて来た。②と③は、アブラハムの信仰義認にならって、神のことばを信じることで諸国民が受ける霊的祝福を指す。④は、「あなたの子孫によって」、すなわちアブラハムの子孫であるキリストによって、諸国民が霊的祝福を受けることを指す。
 - (4) **アブラハムの復活信仰**を確認したのが、モリヤの山でのイサク奉獻の出来事（創 22章、ヘブル 11：17～19）

- (5) 「**アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神**」(出 3 : 6) とは、「アブラハムとの間で契約を結び、その契約をイサク、ヤコブに継承させた神」という意味である。アブラハム契約の 3 つの約束により、アブラハムは復活信仰に導かれた。イサク、ヤコブもその信仰を継承した。神の民、イスラエルとは、神のことばを信じ、神の約束に信頼し、それゆえ、復活を信じる民である。アブラハム契約の根幹は、死を打ち破る復活を信じる信仰である。→ マタイ 22 : 23~33、使 3 : 13~15
2. 神の民に神のことばを授け、聖書を記録させ、保持させる (ロマ 3 : 2)
 3. 聖書の中で、キリストを予告する (旧約聖書の預言)
 4. 神の民の中から、キリストを生まれさせる
 - (1) アブラハムの子孫として (創 22 : 18、ガラ 3 : 16)
 - (2) ユダ族ダビデの子孫として (I 歴 17 : 11~14)
 →「アブラハムの子、ダビデの子、イエス・キリスト」(マタ 1 : 1、新約聖書の始まり)
 5. 神の民の中から、キリストについて証言する者たちを立てる。特に**使徒たちは、キリストの復活の証人**として立った (使 2 : 32、3 : 15、4 : 10、4 : 33、5 : 30~32、10 : 40~41、13 : 26~33)
 - (1) バプテスマのヨハネ (マタ 3 章、マコ 1 章、ルカ 1 章・3 章、ヨハ 1 章)
 - (2) 使徒たち (マタ 10 : 1~4、使 1 : 15~26、I コリ 15 : 5~10、ガラ 1 : 1、11~17、I コリ 4 : 1「神の奥義の管理者」、エペソ 2 : 20 教会の「土台」)
 - (3) 144,000 人 (黙 7 章、14 : 1~5)
 - (4) 二人の証人 (黙 11 : 1~13)

□聖書で中心となる場所はエルサレム、それに対立するのはバビロン

1. バビロン
 - (1) ニムロデが建設した都市 (創 10 : 10)
 - (2) 神に対する反抗とバベルの塔 (創 11 : 1~9)
 - (3) 「異邦人の時」におけるバビロンの役割
 - ① バビロニア、メディア・ペルシア (ダニ 5 : 31「その国を受け継いだ」、9 : 1「カルデア人の国の王となった」)、ギリシアの 3 国とも首都はバビロン
 - ② 第四の国 : ローマ帝国を母体とするも現代まで続き、大患難期後半における反キリストの世界支配体制をもって、完成形となる (黙 17 : 8~11)。反キリストは首都をバビロンに置く (イザ 14 : 4~6「バビロンの王」、黙 17 : 15~18)
 - (4) 大患難期 7 年間におけるバビロンの役割
 - ① 前半の 3 年半、世界統一宗教の本拠地 (黙 17 章)、信者を迫害 (17 : 6)
 - ② 後半の 3 年半、反キリストによる世界支配の首都 (黙 18 章)

2. エルサレム

- (1) アブラハムがイサクを奉獻したモリヤの山（創 22 章）
- (2) モーセが指し示した場所「主が御名を住まわせるために選ばれる場所」（申命記 16: 2、26: 2）
- (3) ダビデが拠点を構えた要害シオン（IIサム 5: 9）の北に位置する山（IIサム 24: 16～19）
- (4) ダビデに祭壇を築くよう、神から示された場所、エブス人アラウナ【オルナン】の打ち場【脱穀場】（IIサム 24: 16～25、I 歴 21: 18～28）
- (5) ソロモンが神殿を建設した山（II 歴 3: 1）。以後、エルサレムは神殿を中心とした都に発展
- (6) ソロモンの死後、王国は北と南に分裂。エルサレムは南王国ユダの王都（I 列 11: 9～13、29～39、12: 15～24）
- (7) 神殿と都は、バビロニア軍によって破壊された（II 列 25 章）。**これ以降、「異邦人の時」（ルカ 21: 24）**

□異邦人の時におけるエルサレム（バビロニア→ペルシア→ギリシア→第四の国）

1. ペルシアの支配下、バビロン捕囚からの帰還とエルサレム再建

- (1) ペルシアの王キュロスの命令によりユダヤの民が帰還して、神殿再建（エズラ記）
- (2) ペルシアの支配下での、ユダヤ人弾圧。プリムの祭りの起源（エステル記）
- (3) ペルシアの高官であったユダヤ人のネヘミヤが、総督としてエルサレムに着任、城壁を再建（ネヘミヤ記）

2. ギリシア、そしてローマの支配下のエルサレム

- (1) ギリシアの支配下のときに、ユダヤ人弾圧。エルサレムの神殿が占拠されるが、祭司一族による抵抗運動の結果、神殿を取り戻して清めた。冬の宮きよめの祭りの起源（ダニ 8: 9～14「小さな角」、11: 21～35「卑劣な者」）
- (2) ギリシアに代わってローマが支配者となったとき、ヘロデ家（エドム人＝エサウの子孫）がローマと結んでユダヤでの支配権を握る。ローマの初代皇帝アウグストが人口調査を命じたため、キリストがエルサレム近郊の町ベツレヘムで生まれる。このときエルサレムにいたヘロデ王は、キリスト殺害を図ったが失敗した（マタ 2 章）
- (3) 紀元 26 年、荒野でバプテスマのヨハネが宣教開始。エルサレムから調査団。
- (4) 紀元 27 年の春、イエスが宮きよめをしてメシア宣言（ヨハ 2: 13～3 章）
- (5) 紀元 28 年の春、イエスが安息日に病人を癒やして指導者層と対立（ヨハ 5 章）
- (6) 紀元 29 年の春、エルサレムから来た調査団は、イエスをメシアではないと公式拒否。この年の春の祭りにはイエスと弟子たちはエルサレムに上らなかった（マタ

- 12 : 22~45、ヨハ 6 : 1~4)
- (7) 紀元 30 年の春、イエスがエルサレムで逮捕され、十字架刑に処せられた。墓に葬られるが、三日目によみがえった (マタ 28 章、マコ 16 章、ルカ 24 章、ヨハ 20 章、使 2 : 24~32)
 - (8) 紀元 30 年の春、よみがえってから 40 日目、エルサレムの東側、オリーブ山からイエスが天に引き上げら、父なる神の右の座に着かれた (マタ 26 : 64、使 1 章、使 2 : 33~36)
 - (9) 紀元 30 年の春、よみがえってから 50 日目、エルサレムにいた弟子たちに聖霊が下り、教会がスタートした (使 2 章)
 - (10) ステパノの殉教 (使 6 : 8~7 章)
 - (11) 使徒ヤコブの殉教 (使 12 : 1~2)
 - (12) 使徒パウロの第 1 回伝道旅行 (使 13~14 章) →エルサレム会議 (使 15 章) 紀元 48 年頃
 - (13) 使徒パウロがエルサレムで逮捕された (使 21 : 27~23 : 22) →カイサリアに移送 →ローマへ移送 (使 27~28 章)
 - (14) 紀元 70 年、ローマの軍隊により、都と神殿が破壊された (ダニ 9 : 26、ゼカ 11 : 1~6、マタ 12 : 45、16 : 25、22 : 7、23 : 36~38、24 : 2、ルカ 11 : 49~51、13 : 1~5、13 : 34~35、20 : 16、21 : 6、21 : 20~24、23 : 27~31、使 2 : 36~40、I ペテ 4 : 7「万物の終わり」)
 - (15) 紀元 135 年、バル・コクバの乱 (ゼカ 11 : 15~17、マタ 24 : 5)。ユダヤの地名はパレスチナに改称。ユダヤ人は追放され、世界離散 (申 28 : 64、申命記にはイスラエルの回復と帰還の約束が続く = 申命記 29 章~30 : 10、ただし、このあとの旧約預言では、イスラエルの帰還は 2 つの段階で起きることが啓示された。まず不信仰の状態での帰還、次に第二段階として、神の民として回復されて信仰ある状態での帰還、である)
3. 現代そして将来のエルサレム・・・ローマ帝国はその後の国際社会に引き継がれ、今もなお生き続けている。そして、エルサレムは今もなお、「異邦人の時」の中にある。
- (1) 不信仰の状態でイスラエルが帰還してきた (エゼ 20 : 33~38、→ 1948 年独立)
 - (2) ロシアとイランの連合軍がイスラエルに攻撃を仕掛ける (エゼ 38 : 1~39 : 16)
 - (3) 反キリストとイスラエルが条約を結ぶ。ここから 7 年間の大患難期が始まる (ダニ 9 : 27)
 - (4) エルサレムではないが、14万4千人のユダヤ人が 3 年半の間、世界的に宣教活動をする (マタ 24 : 14、黙 7 章)
 - (5) エルサレムでは 2 人の証人が立って、3 年半の間、イエスについて証しする (ゼカ 4 章、黙 11 : 3~6)
 - (6) 2 人の証人は反キリストに殺されるが、三日半の後、復活して天に引き上げられ

る（黙 11 : 7~13）。「預言者ヨナのしるし」（マタ 12 : 39）の 3 回目。

- (7) 反キリストがイスラエルとの条約を破棄して、エルサレムの神殿に立ち、自らを神と宣言する。以降、反キリストはバビロンを首都として、世界を 3 年半にわたり支配する（ダニ 9 : 27、マタ 24 : 15~22、黙 11 : 2、17 : 8~11）
- (8) 反キリストがユダヤ人を弾圧する（ダニ 12 : 1、マタ 24 : 21~22）
- (9) 反キリストがユダヤ人絶滅を目指してハルマゲドンに軍勢を集結し、エルサレムを攻撃して破壊する。その後、ボツラに避難しているユダヤ人たちを攻撃するために、ボツラに近づく。
- (10) キリストはボツラに再臨して、反キリスト軍をエルサレムにまで押し返す。エルサレム近郊で反キリスト軍は壊滅する。キリストは、オリーブ山の上に立つ。大地震が起きて、地形が大きく変わる。これで**異邦人の時が終わる**。

(注) (9) と (10) は、一般的に「ハルマゲドンの戦い」と呼ばれる出来事である。聖書の中には、その用語自体はない。黙示録では、「全能者なる神の大いなる日の戦い」（黙 16 : 14）と呼んでいる。ハルマゲドンの戦いの展開を記す聖書箇所は、資料 C を参照ください。

□メシアの王国におけるエルサレム

- (1) 信仰あるイスラエルが帰還してくる（イザ 11 : 11~12「再び=2 回目」、27 : 12~13、エゼ 37 : 21）
- (2) エルサレムは、世界で一番高い場所となる（イザ 2 : 2）
- (3) エルサレムに新しい神殿が建てられる（イザ 56 : 6~8「あらゆる民の祈りの家」）。神殿からは水が流れ出し、死海に流れ入り、魚がたくさん棲むようになる（エゼ 47 : 1~12）
- (4) ダビデがイスラエルの王となる。全世界の王であるキリストとの関係では「君主」（エゼ 34 : 23~24「君主」、37 : 24~25「王」「君主」）
- (5) 12 人の使徒たちが、イスラエルの 12 部族それぞれを治める（マタ 19 : 28）
- (6) キリストは全世界の王である（イザ 9 : 6~7、11 : 1~5、詩 2 : 8~9、黙 12 : 5）
- (7) エルサレムから全世界を統治する法令が発せられる（イザ 2 : 3~4）

□天のエルサレム

- (1) 私たちの国籍は天にある（ピリピ 3 : 20）
- (2) そこには天のエルサレムがある。**その都を設計し、建設されたのは神である。アブラハムが憧れていたのは、この都であった**（ヘブル 11 : 10、16）
- (3) 私たちの住まいはそこにある。私たちのための場所の用意ができたなら、キリストは私たちを迎えに来てくださる（ヨハネ 14 : 2~3、マタ 24 : 36~42、I テサ 4 : 16~17）
- (4) 神が新しい天地を創造される。地の上に天のエルサレムが降り立つ。そこで、神は人とともに住んでくださる（黙 21 : 2~3）。もはや**死は、ない**（黙 21 : 4）